

魁

【訓】さきがけ さきがけ
【音】カイ

他に先んじること。先駆け。
かしら。頭領。首領。大物。

日本語の「さきがけ」は「先に駆ける者」ですが、漢字そのものは「頭(かし)」や「大物」といった意味を持っています。この文字は「鬼」に「斗」からなっていますが、「鬼」という字は「おに」の意味の他に「強く勇ましいもの」「大きい」という意味もあります。

「斗」は、柄の付いた「ひしゃく」の形の意。中国の天文学・占星術にある二十八宿の一。北方の第一宿。射手座中の北西部の六星、南斗六星をさします。あわせて、「大きなひしゃく」「北斗七星の頭部の四星、または、その第一星」を意味し、後に、文運を支配する星とされたことから「かし」「頭領」「第一番目」「さきがけ」「最先端」などの意味になりました。

魁(さきがけ)の技術を、お客さまのもとへ。

私たちは「いいものをお客さまにお届けしたい」の想いのもとに、業界の先駆けとなるべく

「高出力ファイバーレーザー発振器」を自社開発。

そのポテンシャルを最大限に引き出すために

3軸リニア世界最速マシンに搭載、

従来機を大きく凌駕する

高性能ファイバーレーザーマシンをお届けします。

加工速度は分速100mと、従来のCO₂機に比べ約5倍の速さを実現。

アルミ加工のほか、銅、真鍮の難削材も加工可能としながら、

電力消費量1/3、ランニングコスト70%以上をカットしました。

この度の栄誉は、お客さまへの想いから生まれたもの。

この革新が、お客さまがすすめる

「モノづくり」の革新となるために。

そして、お客さまがさらに「魁」となることを信じて・・・

アマダはいつの時代もお客さまとともに歩んでまいります。



第54回 日刊工業新聞 十大新製品賞 増田賞受賞



ファイバーレーザーマシン
FOL 3015 AJ
Fiber Laser

世界初！

マシンメーカーによる

高出力ファイバーレーザー発振器
(2kW・4kW)を自社開発。

レーザーマシンメーカーとしての技術力とノウハウをバックボーンに、世界に先駆けて高性能発振器を自社開発。加工機までの一貫した開発・生産体制により、定評あるレーザー加工技術をしかりと反映させながら、より高度な技術へと展開、従来機を大きく凌駕する高性能レーザーマシンに結果させました。

加工スピード

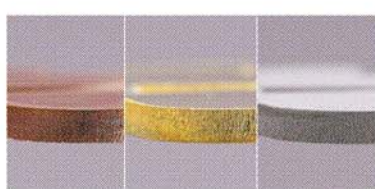
従来機(CO₂)比5倍^{*}。

ファイバーレーザー発振器のポテンシャルを支える世界最速3軸リニアドライブとのベストマッチング、速さの融合が新次元の加工を実現。溶け込み、熱ひずみを極小化、100μmのレーザー光幅で、微細加工でも際立つ仕上がりです。



エッジ部分の溶け込みがありません。

アルミ材加工に威力を発揮。
銅、真鍮も加工可能。



難削材も加工が可能です。

ビーム吸収率CO₂比3〜4倍、レーザー光波長1.08μm

と、高反射材のアルミでもしっかり加工。CO₂ではできなかったチタンや銅、真鍮など難削材も加工可能です。

電力消費量1/3^{*}。

高エネルギー変換が可能となり、エネルギー効率は従来CO₂レーザーに比べ3倍、電力消費量を大幅に削減。暖気運転やレーザーガス不要で、ランニングコストを70%以上カットしました。

